

堤中納言物語伝本考 (四)

松 村 誠 一

(高知大学文理学部 国語学国文学研究室)

On the variants of "Tsutsumi-chūnagon monogatari" (4)

Seiichi MATSUMURA

(Seminar of the Japanese Language, Liberal Arts Faculty, Kochi University)

第一群第一類第三種の諸本*

(1) 河島又生氏蔵小山多乎理旧蔵本(以下小山本と称す.)

縦27纏, 横19纏. 袋綴一冊. 「小山文庫」の蔵書印がある.

62ウに次の奥書がある.

明治廿三年十二月一日校畢

七十五翁小山多乎理

(2) 多和文庫蔵本** (以下多和文庫本と称す.)

縦26.9纏, 横19.5纏. 袋綴一冊. 「香木舎文庫」「多和文庫」等の蔵書印がある.

(3) 国立東京博物館蔵岸本由豆流旧蔵本(以下岸本本と称す.)

縦27.3纏, 横18纏. 「朝田家蔵書」の印がある.

54ウに次の奥書がある.

右堤中納言物語一卷春海翁の蔵本をもて校合をはりぬ

猶いふかしきところ〈すくなからぬに正本なければいかゞは

せん

文化十三年正月十日

梶 園

墨付54枚・行数・字詰等すべて多和文庫本と一致している.

(4) 旧群馬師範学校蔵本(以下群馬本と称す.)

戦災により焼失したが, 昭和8年に荒木田楠千代氏が謄写・版割で翻刻されたものがある. それによれば, 墨付・行数・字詰等すべて多和文庫本・岸本本と一致していることがわかる. 但し原本の読み難い字体を翻刻するに当って, 翻刻者の筆癖が加わっている点もあるらしいので, 資料としては不確実なところが少くない.

第一類第三種の諸本の共通異文

小山本・多和文庫本・岸本本・群馬本を比較して, その共通異文をあげると, 次の如くである. 共通異文は, 次の順序で記述する.

番号, 拙著堤中納言物語(日本古典全書)*** による頁数一行数, その本文一共通異文.

* 土岐武治 小山多乎理旧蔵堤中納言物語とその系統 立命館文学 昭和30年8月

** 土岐武治 多和文庫蔵本堤中納言物語について 立命館文学 昭和29年6月

*** 松村誠一 堤中納言物語 3版 朝日新聞社 昭和31年2月

- (1) 35-7 荒れ-ナシ (2) 33-12 留る-とまり (3) 38-14 なむと申せば-など申せば (4) 39-2 さらさらむ-さらはさらぬ (5) 41-11 何事にか-なに事か (6) 42-1 つい給はむとすや-ついたまはんとす (7) 42-8 いさよとて-いさとよとて (8) 46-5 さまをみむ-さまをもみん (9) 48-6 なといひて-なといへて (10) 48-13 捕ふれは-とらへれは (11) 48-14 ゆゆしとも-ナシ (12) 49-3 なとを-なと (13) 50-7 事そ-ことの (14) 50-8 いみしう-いみし (15) 50-15 よき-よく (16) 53-12 とて-ナシ (17) 56-13 遙になれは-はるかなれは (18) 60-7 給はさなれは-給はさるれは (19) 60-8 君-ナシ (20) 65-1 入るに-いかに (21) 66-4 今より後たに思し知らすかほならば心憂く-ナシ (22) 66-5 思ひ侍らし-おもひわつらはし (23) 67-10 童-ナシ (24) 68-3 いみしく-いみしき (25) 69-9 いと-ナシ (26) 75-10 いふせくて-いふせく (27) 76-10 おはする-おはず (28) 78-8 時々も-ナシ (29) 79-7 いと-いとう (30) 80-2 思ひあへたらむ-思ひあへらん (31) 81-5 御ため-ため (32) 81-11 権少将殿-権の中納言殿 (33) 81-2 あやしさに-あやしきも (34) 82-8 本のままと-ほんのまゝに (35) 84-1 むたる-いたるを (36) 84-7 五の君-五の宮 (37) 85-2 うきを-うきは (38) 88-7 思へと-思ひと (39) 91-6 あらせし-あらまし (40) 91-10 世の人々は-よき人とは (41) 92-3 たた今も-たゞいかも (42) 92-3 なむ-ナシ (43) 93-2 事にこそ-事にそ (44) 94-10 立ち出てたるを-たちいて給を (45) 95-13 いと-ナシ (46) 96-13 いと-ナシ (47) 100-2 盥-ナシ (48) 102-10 にまれ侍らむを貸させ給へ-にてもかさせ給へ

第三種の諸本の相互関係

第三種の諸本の中、多和文庫本・岸本本・群馬本の三本は、前述のような書誌的一致点を有するのみならず、その本文に次のような共通異文を有するので、その関係の深いことがわかる。

多和文庫本・岸本本・群馬本共通異文

- (1) 36-5 透垣のつらなる群薄の繁き下に隠れて-ナシ (2) 37-11 内裏に-うち (3) 39-10 後へ-うしろ (4) 49-11 さまなと-さまと (5) 50-5 にのたまふ声-ナシ (6) 50-13 いと-いく (7) 52-4 突き落せは-つきおとせて (8) 52-8 さすかに-さすかにさすかに (9) 53-6 煩はしきけそ-わつらはしきをう (10) 55-3 我も-われと (11) 55-5 何はかり-なにはかりなにはかり (12) 59-8 さし寄せよ-さしよせと (13) 60-1 この-ナシ (14) 60-5 のたまへは-のたまひは (15) 60-5 明後日-あたせ (16) 61-6 いひ過くす-いひすく (17) 61-14 いつれもいつれも-いつれも (18) 62-6 なり-なく (19) 62-13 給ひて-給へて (20) 63-14 うち解け-うち (21) 70-13 置き置きつれは-とりおきてつれは (22) 71-15 言ひかてら-かひかてら (23) 79-2 御風の気のむつかしく-御かせけのむつかしく (24) 79-7 給ひぬ-給へぬ (25) 84-8 うつろふ-うつくふ (26) 84-8 明暮-あれくれ (27) 85-7 さむはれ軒端の山菅に聞えむ-ナシ (28) 87-12 うち笑ふ-かちわらふ (29) 90-2 語らへは-かたらひは (30) 92-1 いひければ-いへければ (31) 96-14 迎へ返してむ-むかへしてん (32) 98-8 給ひそ-給へそ (33) 100-3 それを-それ (34) 100-9 とも-とて (35) 101-9 新羅の峯にまれ-しらきのみねにされ (36) 102-7 あらむを-あらんも (37) 102-11 またきなくは破達にても貸させ給へ-ナシ (38) 104-4 諸心-もろころ

岸本本は、およそ 330 ばかりの独自異文を有し、群馬本はおよそ 550 ばかりの独自異文を有するが、しかもなお両者の間には、次のような共通異文がある。このことは両者の間の関係を示すものである。おそらく群馬本の方が後に位するものであろうが、岸本本の直接の書写であるとする確証は無い。

岸本本・群馬本共通異文

- (1) 39-1 御伯父の-御をむの (2) 39-4 童は-はなに (3) 46-8 召し寄せて-めしよりて
 (4) 48-14 蝶は-てうと (5) 53-14 見給ひつらむよとて-見給ひつらんをて (6) 54-8 毛の
 末-けのすめ (7) 58-4 思ふにや-おもふきや (8) 58-5 ゐたる-ゐたり (9) 60-1 雲かく
 れ-からかくれ (10) 64-9 十日宵-十四よひ (11) 70-7 赤くなりて-あてなりて (12) 72-
 2 かうかう-かな (13) 72-10 いろいろ-いな (14) 81-8 おのおの-おゐ (15) 82-
 4 あるを-ありを (19) 88-15 ありしを-あらしを (17) 89-11 いひたりしかは-いひたりし
 かと (18) 90-12 しそく-しはく (19) 90-13 殿の事-との事 (20) 93-3 今まで-いまで
 (21) 94-5 すみはつる-すみとつる (22) 94-11 ささやかにて-さやかにて (23) 95-9 泣き
 行く-なき行 (24) 98-3 ひききり-さきり (25) 98-15 むくつけく-むくつけて (26) 104-
 1 上の方に-かみのかた

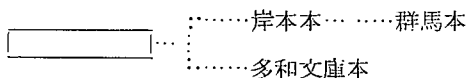
多和文庫本は群馬本との間には共通異文を有しないが、岸本本との間には、次のような共通異文がある。

多和文庫本・岸本本共通異文

- (1) 50-6 事をも-ことをは (2) 53-14 虫をしも-むしをしと (3) 67-2 隙なけなる-ひまけなる
 (4) 68-7 あなかま-あなかさと (5) 94-3 明きに-あかつきに

しかし、多和文庫本と岸本本との間の直接の書写関係の存在を示す確証は無い。多和文庫本は、独自異文およそ5ばかりで、岸本本や群馬本のような独自異文の多いものからの書写とは考えられない。従ってこの三本の間には、次のような関係があると考えられる。

……は直接の書写関係か否か不明であることを示す。



小山本は、多和文庫本との共通異文を有せず、群馬本との間にはただ1か所(63-3 中将か-中将)あるにすぎない。岸本本との間には、次のような共通異文がある。

小山本・岸本本共通異文

- (1) 49-2 かはむしは-かはむしす (2) 49-7 いなかたち-いなたち (3) 51-10 著あけて-きありて (4) 52-15 見て来と-みしと (5) 64-13 余所なから-かうなから (6) 78-2 今は-すは (7) 79-6 すすめ奉れは-すめたれは (8) 86-11 御前こそ-御まへより (9) 86-14 のたまふに-の給ふ (10) 87-14 見しも-みしは (11) 89-6 いみしく-いとしく (12) 90-14 書き-かきし (13) 92-1 男-なと (14) 93-9 知りたる-しり奉る (15) 93-11 おはせ-おはせん (16) 96-14 なりなむ-なるらん (17) 98-9 簾を-すたれす(岸本本すきれす) (18) 98-12 思ひて-おもひ (19) 100-9 それにも-夫も

次に、小山本は多和文庫本・岸本本との間に、三本の共通異文を有する。

小山本・多和文庫本・岸本本共通異文

- (1) 49-3 覚えねは-おほえねと (2) 52-3 これを-これも (3) 57-14 風は-風に (4) 69-13 かかりたる-かりなる (5) 70-12 をかし-をかく (6) 86-15 何事-何事の

小山本は、岸本本・群馬本との間にも次のような共通異文を有する。

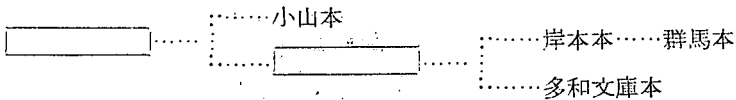
小山本・岸本本・群馬本共通異文

- (1) 48-9 あらなむかし-あらなんかく (2) 52-12 顕なり-あらはなる (3) 76-8 給ふに-給

ふ (4) 84-4 竜胆はーりんたうそ (5) 94-1 思ふにーおもふから (6) 96-5 たりーけり (7) 101-3 なれともーなきとも

しかし、小山本と多和文庫本・群馬本との共通異文は無い。

かくの如く小山本は、独自異文をおよそ 160 ばかり有し、多和文庫本との共通異文は無く、岸本本との共通異文は上述の通りであり、群馬本との共通異文は僅か 1 か所である。さらに小山本は岸本本・群馬本との共通異文、多和文庫本・岸本本との共通異文を同じくらい有する。多和文庫本は岸本本・群馬本と多くの共通異文を有する。このような諸条件をみたま関係は、次のようなものであろう。



第一類の諸本の共通異文

これまで述べて来た第一種・第二種・第三種の諸本が、同じ第一類に属することは、次のような共通異文を有することによって明かである。

(1) 37-9 かけさりしかたにーかけさりしかたにて (2) 38-9 あらしとーあらしとそ (3) 38-15 をかしけにそーをかしけそ (4) 56-3 もとかしければそかしーもとかしければと>かし (5) 58-4 まもりてーまもりて* (6) 83-10 見給へーみ給へは (7) 84-3 女院のわたりにこそ女院のわたりにそ (8) 86-9 あれはーよめれは (9) 88-15 人はーは (10) 98-7 うちさうときてーさうそきて (11) 98-11 きろきろとしてーきろして (12) 99-5 これをはーこれを (13) 99-6 かしこにはーかしこに (14) 99-6 し侍るなるにーし侍るに

第一類の諸本の相互関係

第一類の諸本の中、第一種の諸本と第二種の諸本とは、次のような共通異文を有する。

第一種・第二種共通異文

(1) 56-1 ねなかきーゑかたき (2) 61-7 またきにーまたきには (3) 92-8 ものもーもの

これによって、第一類の諸本の中、第一種と第二種の諸本の間には、近い関係があることがわかる。

第一種の諸本と第三種の諸本とは、次のような共通異文を有する。(前回**に述べた第一種の共通異文 1・3・4・11・14・15 は削除する。又、南葵文庫本・函崎文庫本共通異文 3・19 は削除する。)

第一種・第三種共通異文

(1) 91-11 人こそー人々そ

第一種の諸本は、小山本との間に次のような共通異文を有する。

第一種・小山本共通異文

(1) 39-10 童ーはる (2) 49-5 角のーつの>*** (3) 80-1 いうにーいうに*** (4) 90-

* ここは拙著が、第一類諸本共通異文を採用した所である。

** 松村誠一 提中納言物語伝本考(白) 高知大学学術研究報告 第4巻 第40号 昭和30年12月

*** ここは拙著が、この共通異文を採用した所である。

14 あらは—あるは

第二種の諸本と多和文庫本・岸本本・群馬本との間には、次のような共通異文がある。(前回に述べた第二種の共通異文1・2・5・17は削除する。)

第二種・多和文庫本・岸本本・群馬本共通異文

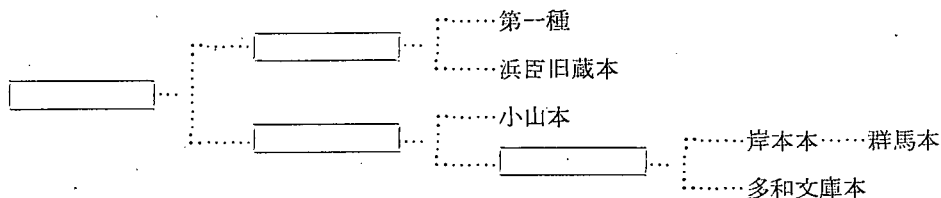
(1) 38-9 えあらし—とそあらし (2) 72-8 夕霧—ゆふきれ

第二種の諸本と小山本・多和文庫本・岸本本との間には、次のような共通異文がある。

第二種・小山本・多和文庫本・岸本本共通異文

(1) 44- せきあへぬ—こときあらぬ

以上のようないろいろの条件をみたすには、第一類の諸本の中に次のような関係があるものと推定される。



第一群第二類の諸本

(1) 大東急記念文庫蔵久原文庫旧蔵大野広城標註本(以下久原文庫本と称す。)

縦24.1纏, 横16.5纏。袋綴一冊。「大野樵園文庫」「木村正辞図書」等の蔵書印がある。35オに次の奥書がある。

文化十四卯月於麻生園書寫了
藤原美波留

表紙の見返に押紙があり、その終に次の記載がある。

文政四巳年正月大愚校本をもつて対
校了後以朱私考書入追而標註となす
へくなん

大野広城

35オの前述の奥書の前に朱で、「大愚校本奥書」として、次のようにしるしている。

右堤中納言物語全部一卷四天王寺明静院蔵書申出誂他筆書写之一校了並以朱加私考者也

(2) 国立国会図書館支部静嘉堂文庫蔵山田常典本(以下山田常典本と称す。)

縦27纏, 横18.8纏。袋綴一冊。

86オに次の奥書がある。

嘉永二年しはすのすゑの八日一校了本云本居氏
校合の本かりえて写畢天保八年八月廿五日百井為衡

山田常典

しるす

(3) 国立国会図書館支部静嘉堂文庫蔵松井簡治博士旧蔵大野広城自筆本(以下大野広城本と称す。)

縦25.7纏, 横18.8纏。袋綴一冊。「大野樵園文庫」「松井蔵書」等の蔵書印がある。

85オに次の奥書がある。先ず文字の輪廓のみを以て

元中二年三月書写

亞相（花押）

とし、その右肩に小さく「古写巻物奥書真書」と註記してある。次に三行にわたって朱で、

右堤中納言物語一卷四天王寺明静院藏書申出

誂他筆書写之一校了

時安永七戊戌首夏中旬 大愚

とし、次に、

右校本次第者朱校明静院本栗色山岡明阿本

藍色元中二年巻物之写也 忍辱舎（花押）

とある。次に85ウに、

天保五年九月得校本再令書写了

大野広城

とある。

(4) 国立国会図書館支部内閣文庫蔵本（以下内閣文庫本と称す。）

縦25.7糎、横19.1糎。袋綴一冊。「浅草文庫」「昌平坂学問所」「大学蔵書」等の蔵書印がある。墨付・行数・字詰をはじめ、奥書も大野広城本と一致している。大野広城本に朱・褐・藍の三色で校合されていたものは、すべて墨を以てし、その上部に、それぞれ朱・褐・藍の小点を附している。これらの点から、本書は大野広城本を忠実に模写したものであることが明かである。

(5) 京都大学附属図書館蔵伴信友校本（以下伴信友本と称す。）

縦27.3糎、横19.1糎。袋綴一冊。「身後俟代我珍藏人伴信友記」などの蔵書印がある。

61ウに次の奥書がある。先ず朱を以て、

右堤中納言物語一卷四天王寺明静院藏書申出

誂他筆書写之一校了

時安永七戊戌首夏中旬 大愚

天保四年十二月以件本校合完 信友

次に褐色で、

亦他日以一本再校了

為自己便覽句読聊加頭書傍書

次に藍色で、

同五年二月二日夜以一本灯下校合了

次に褐色で、

同六年八月十二日亦以一本灯下校了十一月十日亦同

同九年十一月八日亦以一本校畢

とある。

第二類の諸本の共通異文

第二類の諸本は、次の如き共通異文を有する。

- (1) 35-5 木かけ-ほかけ (2) 35-7 あはれけに-あはれけふ (3) 35-8 人気なき-人そなき
 (4) 35-9 給ひし-たまへし (5) 36-1 ものせよ-ものさよ (6) うしろめたくて-こゝろめたくて
 (7) 36-6 なる-なき (8) 36-8 明き-あかきに (9) 36-9 歩み来るに-あゆみくる
 (10) 36-13 たた-ナシ (11) 37-1 ささやかに-さゝやかう (12) 37-5 御けしき-はけしき

(13) 37-8 めやすく-めやすなう (14) 37-10 源中將-中將 (15) 38-9 召し出てて-めしいて (16) 38-11 ゆゑつきてそ-ゆゑつきて (17) 38-15 なりけり-ありけり (18) 39-8 気色-をしき (19) 39-9 給ひて-給りて (20) 39-12 こは-こそ (21) 39-13 給ひて-給りて (22) 39-14 給ひて-たまへて (23) 39-15 給ひて-たまへて (24) 40-1 古ひたる-ふるへたる (25) 40-2 をこまましう-をこまかしう (26) 41-2 ついぬ-つい (27) 41-3 殿に-ときに (28) 41-7 織物の-をりもの (29) 41-8 たたなはりたる-たなはりたに (30) 42-4 思ひも-おもんも (31) 42-5 立ちよりたりしかは-たちよりしなりしかは (32) 42-8 しはし-くし (33) 42-15 聞えさせて-聞んさせて (34) 43-3 けはひ-やはひ (35) 43-3 行ふ-おとなふ (36) 43-4 風-にや (37) 43-8 なりけり-ちりけり (38) 43-10 てこそ-て (39) 43-12 さても-さはも (40) 43-14 あるし-ありし (41) 44-1 忍ふにや-しのふとや (42) 44-5 喚ひて-よひ (43) 44-13 せきあへぬ-てきあらぬ (44) 44-14 あはれに-あはれと (45) 46-1 按察使の大納言-あわちの大納言 (46) 46-1 住み給ふ-ナシ (47) 46-5 籠箱-ことこ (48) 46-6 かはむし-かくむし (49) 46-6 さましたる-さまたる (50) 46-6 こそ-とそ (51) 46-9 には-に (52) 46-10 ある-なる (53) 46-11 白らかに-しろうに (54) 47-5 あやしき事そと-あやしきとそと (55) 47-6 恥し-みつかし (56) 47-7 あやしや-あやし (57) 47-8 かはむし-かやむし (58) 47-14 案し-ありし (59) 47-15 出て立てて-はてたて (60) 47-15 給ふなりけり-給はりけり (61) 48-3 かはむしなから-はかむしなかは (62) 48-9 とかとかしき-とりしき (63) 48-10 めて給ふ-めは給 (64) 48-11 けしからすこそ覚ゆれ-けしからすこそお (65) 49-5 なそと-なと (66) 49-11 いみしく-いととして (67) 49-11 いろこたちたる-いろこたかたる (68) 50-2 顔ほかやうに-ほたのやうに (69) 50-6 しかしかと聞ゆいとあさましくむくつけき事をも-ナシ (70) 50-8 よく見給へは-とくみ給へは (71) 50-12 けしからぬ-けしきらぬ (72) 50-13 おほつかなかりなむ-おほつかなりなん (73) 51-3 按察使-あわち (74) 51-5 草木ともに-草にとともに (75) 51-8 事-もの (76) 51-9 こことにて-爰もとて (77) 51-9 荒らかに-あとかに (78) 51-10 衣-さぬ (79) 51-14 見にくく-みにくし (80) 51-15 練色-ねり (81) 52-3 落さて-おしさて (82) 52-5 さし出てて-さしいとま (83) 52-6 さいなんある-さいなんあか (84) 52-6 こよなく-こよなく (85) 52-7 あやし-あやにあやし (86) 52-9 いみし-いとし (87) 52-15 かしこ-かした (88) 53-2 拾ひ入れて-ひろひければ (89) 53-12 給へる-給へと (90) 54-3 呼び入れて-かひいれて (91) 54-8 あたる-あたら (92) 55-2 物忌とも-ものいみともを (93) 55-3 行き違ふは-ゆきちかふを (94) 55-4 見ゆる-てゆる (95) 55-5 思ひわけ-思にわけ (96) 55-6 薄色-かすいろ (97) 55-7 髪脛はかりある-かみついきある (98) 56-3 もとかしければそかし-もとかしければはかし (99) 56-8 上は-ナシ (100) 57-2 なり-なく (101) 57-3 見奉らむ-みにてまつらん (102) 57-3 萬-まる (103) 57-6 かく-からと (104) 57-6 候ふ男-候を (105) 57-14 ほのめかさすや-ほのあかさすや (106) 58-6 問ひ-こひ (107) 58-13 覚え-おほし (108) 59-4 うち歎かれて-うちなかれて (109) 59-5 余りなる-あまりぬる (110) 59-6 なかめ-なかり (111) 59-6 始まるを-はしまるをは (112) 59-8 ふさはぬ-ふきはぬ (113) 60-1 雲-ナシ (114) 60-1 光-をり (115) 60-1 殿上人-とむ上人 (116) 60-1 なとは-ならは (117) 60-2 ねふたけに-ねふたけた (118) 60-5 根合-ぬあはせ (119) 60-5 何方にか-いつかたには (120) 引き取り-ひきたり (121) 60-7 あやめも-あやなし (122) 60-7 給はさなれば-給はさなれと (123) 60-8 こそは-こそ (124) 60-8 此方に-こなたにて (125) 60-11 三位中將を-三位中將 (126) 60-15 おりたち-かりたち (127) 60-15 をかしう-をかし (128) 61-1 聞

かせ-きかこと (129) 61-9 給ふめり-給けり (130) 61-10 見えす-みえて (131) 61-11
 いたう-いたり (132) 61-14 心々に-心も (133) 61-15 なほ-ナシ (134) 62-3 まもり
 -まとり (135) 62-8 ひきつる-ひきける (136) 62-12 いつれとも-いつれとは (137) 63
 -6 愛敬つき-あい行き (138) 63-12 事とも-こととは (139) 64-1 左-ひかり (140) 64
 -3 慕ひぬへく-したへぬへく (141) 64-4 いたう更けぬらむとてうち臥し給へれと-ナシ (142)
 64-7 おり立ちし-なりたちし (143) 64-9 地-つき (144) 消息-けうそく (145) 65-2 埋
 れ-うつもれ (146) 65-8 おはしたり-おほしたり (147) 65-10 さまそ-さまも (148) 65-
 10 人も-人と (149) 65-11 こそ-とそ (150) 66-3 こそはと-こそいと (151) 67-5 全き
 に-またき (152) 68-8 今より-いまに (153) 68-12 上との-うゑこの (154) 69-3 まろは
 -まろも (155) 69-7 なり行くを-なり行 (156) 69-7 子-こ子 (157) 70-3 ままに-ましに
 (158) 70-4 侍従-しう (159) 70-6 ままも-ようも (160) 70-7 顔も-かほと (161) 70-
 9 給ふなれ-給ぬれ (162) 70-9 上は内大臣殿の-ナシ (163) 70-12 それ-たれ (164) 70
 -13 いへは-いへと (165) 70-15 よからず-はからず (166) 70-15 髪-ナシ (167) 71-1
 こよなく-とよなく (168) 71-1 たり-さる (169) 71-2 求め-もとは (170) 71-4 もの-
 ぬ (171) 71-10 ありつる-ありつゝ (172) 72-3 たる-たゝ (173) 72-5 いかにかそこの-
 いかにかそとの (174) 72-6 仏-働 (175) 72-6 いひあへるは-いひあへる是 (176) 72-7 疾
 く-とた (177) 72-8 夕霧-ゆふさり (178) 72-14 昨日の子-昨日のに (179) 73-6 思ひ
 得つ-思ひはつ (180) 74-4 有様に-ありさま (181) 74-4 給ひしに-給へしに (182) 74-
 7 候へは-うへは (183) 74-11 おほどのこもり-おほこのこもり (184) 75-6 いかか-いと
 (185) 75-6 さるへきに-さる人きに (186) 75-9 御住ひ-わすまひ (187) 76-3 たり-ナシ
 (188) 76-13 聞き給ひて-聞え給て (189) 77-13 権少将-このゝ少将 (190) 78-2 折も-を
 りし (191) 78-2 いとと-いとゝ* (192) 78-2 かるかるしう-のかしう (193) 78-3 違
 へむ-おかへん (194) 78-4 すすめ奉る-すゝめ給へてまつる (195) 78-4 我にもあらず時々
 おはする折もありけり-ナシ (196) 78-6 給へるに-給へるにと (197) 78-7 なと-ナシ (198)
 78-9 侍に-さふらひも (199) 79-5 必ず-かならず (200) 79-8 参りぬる-まわりぬ
 と (201) 79-9 限りなく-かきり (202) 79-14 給ひてむや-給はんや (203) 80-3 さま
 ま-うま (204) 80-11 わかく-あかく (205) 81-2 かき抱きて-かきいたき (206) 81-5
 思しなせよに-おほしなせよ (207) 81-8 例の漏らしにけり男も女も何方もたた同し-ナシ
 (208) 81-11 深きしも-ふきしも (209) 81-12 あやしさに-あやし (210) 81-13 奉る-奉る
 に (211) 82-3 なればそ-なればや (212) 82-5 優る-まさり (213) 82-6 とりとりなりけ
 る-とり (214) 83-2 聞きし-きし (215) 83-4 あなれば-あれば (216) 83-8 は
 つかしけに-もつかしけに (217) 83-11 たる-てる (218) 84-3 わたりにこそ-わたりにも
 (219) 84-6 中宮は-中宮は* (220) 84-11 へき-人き (221) 84-12 給ひし-給へし (222)
 84-13 道理と-ことわりそ (223) 84-13 見奉り-みえてまつり (224) 84-15 御おとと-お
 とと (225) 85-6 さて-さは (226) 85-8 芭蕉葉と-はせふはは (227) 85-12 うき-うさ
 (228) 86-4 したりかほにも-したりかほにて (229) 86-5 なてしこも-なてしこは (230) 86
 -6 みな人々も-みなも (231) 86-7 給はね-給はねは (232) 86-10 みたれてなひく-み
 たれてなひく* (233) 86-13 咲くかと-さくとは (234) 86-14 寝入りにけり-ねはりにけ
 り (235) 86-15 候はねは-候はねと (236) 87-3 また寝るを-またぬるを (237) 87-6 よ

* ここは拙著が、第二類諸本共通異文を採用した所である。

そにて一よそとて (238) 87-6いとと一いとも (239) 87-7 更けぬれは一ふけぬれと (240)
 87-9こそこと (241) 87-10 人は一ナシ (242) 87-12 給ひつや一たまへつや (243) 88-
 1一所一ひはころ (244) 88-9 宮はら一五は > (245) 88-9 一人つつ一ひとのは > (246) 88-
 15 人は一ナシ (247) 89-1 御人は一御人か (248) 89-2 とらへつへき一こしへつへき (249)
 89-6 ほとも一ほとし (250) 89-8 引き放ちて一ひきはなち (251) 89-8 入りしを一いり
 にしを (252) 89-11 さわかぬ一さわらぬ (253) 89-12 少くそ一すくる > そ (254) 90-1 は
 らからといひいみしく一はらといつはみして (255) 90-3 かかる一かく (256) 90-7 あやし
 くも一あやしさも (257) 90-8 ものさまかな一もの > さま也哉 (258) 90-9 思はさるらむ一お
 もはさらん (259) 90-10 なとも一なとそ (260) 90-10 この人の一こせち人の (261) 90-
 10 心かけ一心よけ (262) 90-10 知らはや一しみはや (263) 90-11 たた今これをそ一た > は
 うむれをそ (264) 90-12 しそく一しみ < (265) 給へる一給へは (266) 91-5 今は一いらは
 (267) 91-5 開きて一き > つけて (268) 91-5 なめれ一なけれ (269) 91-7 さるへき一さる人
 き (270) 91-9 本意一おす (271) 91-11 こそとそ (272) 92-1 侍るなと一侍るかなと
 (273) 92-1 男一をと > (274) 92-2 はかりは一はかりも (275) 92-4 給へ一たる給へ (276)
 92-14 端つ方一こしつかた (277) 93-1 かくいふよと一かくいふま > (278) 93-2 事にこ
 そ一事よこそ (279) 93-3 いつちもいつちも一いつちと < (280) 93-3 今まで一いからて
 (281) 93-4 あらず一あかす (282) 93-10 おはします一おかします (283) 93-12 焼かせ一をか
 せ (284) 93-14 今の人一心の人 (285) 93-14 なとも誰にか借らむ送れとこそいはめと思ふも
 一ナシ (286) 94-3 忍ひて一しのひと (287) 94-3 明きに一あかきと (288) 94-7 牛一こし
 (289) 64-7 たた近き一たもちかき (290) 94-8 馬一こま (291) 94-9 思へと一思へは (292)
 94-10 乗らむ一あらむ (293) 95-4 多くは一おう < は (294) 95-4 一人一はかり (295) 95-
 7 具せさせ一くけさせ (296) 96-4 馬に一こりに (297) 96-6 往きけるに一いきけるとに
 (298) 96-8 恋ふる一かふる (299) 96-9 いふにそ一いふそ (300) 96-9 童一わらははかり
 (301) 96-12 迎へ返してむ… 99-10 をかしけれ一ナシ (302) 100-6 さては一さらは (303)
 100-6 我が国には一わかくにもは (304) 100-8 かしたいし一かくたいし (305) 100-9 侍り
 て一侍そ (306) 101-1 我が一ナシ (307) 101-6 絶え間一た > 間 (308) 101-11 この頃一ひ
 とろ (309) 101-14 かかる一から (310) 102-2 釜一にすま (311) 102-3 檜皮屋一ひとたや
 (312) 102-3 大炊殿一おほるま (313) 102-3 よう侍れと一より侍れと (314) 102-6 真弧に
 まれ一まこにもまれ (315) 102-7 菅蓆一す > とも (316) 102-7 十布の一とふり… (317) 102-
 8 な賜ひそ一なたまへそ (318) 102-8 生松原のほとりに出て来なる筑紫筵にまれみるをか浦
 に刈るなる三繪筵にまれ一ナシ (319) 102-11 よう一はう (320) 102-12 布屏風一ぬの > ひや
 うふ (321) 102-12 にもあれ一にてもあれ (322) 102-14 丸盟一よろらひ (323) 102-15
 けふりか崎一けふりのさき (324) 102-15 鑄る一いき (325) 103-2 うつなる一うつ (326)
 103-3 とむ片岡一こむかたをり (327) 103-4 信楽一しうらき (328) 103-5 浦島の子か箱一か
 らしまのとかかはこ (329) 103-9 野洲一やと (330) 103-14 一つら一わら (331) 103-14
 いるへきもしこれら貸し給はば心なからむ人に一ナシ (332) 103-15 かけろに一かけつに (333)
 104-1 賜へ一たとへ (334) 104-5 給ひそ一給へ (335) 104-5 もの一ナシ (336) 104-7 事
 のもの (337) 104-8 いかにかにそや一いかにそや (338) 104-8 覚えしかは一おほえしな
 (339) 105-4 事と一もの > (340) 105-4 ひき過ぎぬ一ひき > ぬ (341) 105-5 あまた一あま
 たの (342) 105-6 ゐたらむ一ぬらん

第二類の諸本の相互関係

第二類の諸本の中、久原文庫本と山田常典本とは、次のような共通異文を有する。

久原文庫本・山田常典本共通異文

- (1) 38-15 をかしけにそ-をかしせそ (2) 41-5 二付け-二つの (3) 41-8 そこはか-とこはか (4) 42-7 ありて-のりて (5) 43-11 とこそ-こそ (6) 43-12 なりや-はりや (7) 44-2 ゆかしうて-ゆかして (8) 45-3 見しにこそ-みしふゝそ (9) 45-4 なれは-なれ (10) 47-12 蝶-てはふ (11) 50-12 作りたる-つりたる (12) 51-1 さまことなる-さまのことなる (13) 52-3 追ひおこせよ-おひおらせよ (14) 53-6 煩はしき-わつゝはしき (15) 53-11 扇して-あふきゝて (16) 54-1 とまりて-こまりて (17) 57-11 取らすれば-こらすれば (18) 57-13 清け-きかけ (19) 59-9 恨み-こしみ (20) 60-2 すさましけなるそ-すさりしけれかを (21) 61-6 右の-すきの (22) 62-2 さらに-さらき (23) 62-4 心地よけ-心ちよろ (24) 62-4 折に-をりき (25) 62-13 忍ひやかにて-このひやかにて (26) 63-9 侍る-はへに (27) 68-1 出て入る-いていか (28) 69-8 見もつけられ-みつけられ (29) 69-11 さわく-さかく (30) 70-6 思ひまうて-思まかて (31) 71-2 かねて-と居て (32) 73-2 たた-たし (33) 73-6 さるへき-さる人き (34) 74-4 つけても-つても (35) 74-6 はかはかしく-はかゝしつて (36) 75-2 書かす-からす (37) 75-3 聞き-きて (38) 75-7 いととらうたく-いとたちうたゝ (39) 79-15 男君-仰君 (40) 80-10 これもいと-これもいとこれもいと (41) 83-7 しつつ人の上-しつらんの上へ (42) 85-8 奉る-にてまつる (43) 86-4 とのたまへは-このたまへは (44) 86-13 たのまるるかな-たいのまるゝ哉 (45) 88-2 いか-ゆかに (46) 89-8 なから-なかみ (47) 89-10 にほひやかに-にほほやかき (48) 90-14 あんなるも-あんなきも (49) 91-6 通はせて-かにはせて (50) 91-9 口惜しけれと-くちをしまれと (51) 92-2 奉らぬを-奉てまつらぬを (52) 92-8 しめりたるを-しめりたるいせ (53) 92-12 土犯すへきを-つひをらすへきを (54) 93-6 泣き暮らす-なきへらす (55) 93-10 侍らさりしかとも-侍りかしかとも (56) 93-11 清けに-さよけに (57) 100-11 あるは-あり (58) 101-3 もの-みの (59) 101-6 さらすは-さらもは (60) 103-4 折敷-なしき (61) 103-4 あめのした-あめしさ (62) 103-10 みちくの島-みちしの島 (63) 104-4 思ひ入り-おもはり

大野広城本・伴信友本は、次のような共通異文を有する。

大野広城本・伴信友本共通異文

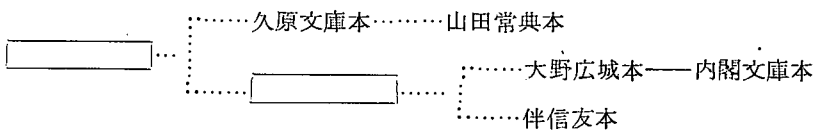
- (1) 38-9 かくはえあらし-かくこそはあらし (2) 38-15 をかしけにそ-をかしさそ (3) 41-5 御帳-御きやう (4) 42-2 いと美しき児さへ出て来にければあはれと思ひ聞えながら厳しき片つ方やありけむ-ナシ (5) 42-8 かき抱きて-かきたるみへ (6) 43-3 人すくななる-人すくなく (7) 43-11 給はさりけむとこそ-給はさりけんとそ (8) 43-12 なりや-はかりや (9) 45-3 見しにこそ-みしに□そ (10) 47-12 蝶-てはけ (11) 48-15 いとと-いとゝ (12) 49-5 角の-あいのり (13) 49-6 ひさまろ-ひさきつ (14) 49-7 いなかたち-いなるたち (15) 50-9 給へりければ手に取り持ちて-給へりければとてとく持て (16) 51-1 さまことなる-さのことなる (17) 51-2 いかて見てしかなと思ひて-ナシ (18) 52-3 追ひおこせよ-おひおちせよ (19) 53-3 鞋-うき (20) 54-1 見思ふへき-おもふへき (21) 54-6 問ひてこそ-こひてこそ (22) 54-8 かはむしに-かはむしの (23) 56-7 疾く-ナシ (24) 58-5 摘み-へは (25) 58-9 有様-あかさま (26) 59-9 恨み-こらみ (27) 60-2 すさましけなるそ-すけれかを (28) 60-13 聞えさすれば-きこえてさそなは (29) 61-3 根とも-ナシ (30) 61

-6右の一きの (31) 61-7いたう-いたし (32) 62-4折に-をり (33) 62-13忍ひやかにて-このひやかて (34) 63-9にて-ナシ (35) 67-2立ちかくしつへく-たちかくしつ (36) 68-1家-いて (37) 69-11 さわく-ナシ (38) 70-6思ひまうて-まかて (39) 70-13 たる-ナシ (40) 71-2 かねて-と君と (41) 71-7 ぬたるさま美しうち見廻して渡りぬこのありつるやうなる童-ナシ (42) 72-9 三まかり-みはから (43) 74-1 昔物語-むかしの語 (44) 74-4 つけても-つも (45) 74-6 はかはかしく-はかして (46) 74-10 少納言の君-中納言の君 (47) 76-15 このかみ-このみ (48) 77-2 なり-なれば (49) 77-8 にて-ナシ (50) 78-15 風にや-世にや (51) 79-15 男君-君 (52) 82-1 今一方-やひた (53) 85-8 奉る-にてる (54) 87-6 あかぬ-ありぬ (55) 87-9 覚えなく-おほえなき (56) 88-2 いか-ゆめに (57) 89-3 折のみ-をりのも (58) 89-7 思ひたのめて-しためて (59) 89-8 思ひなから許してき-思なかてき (60) 89-10 にほひやかに-にほやかき (61) 90-10 この人を-此人も (62) 90-14 あんなるも-あれなきも (63) 90-14 書きつけ-かきつ斗 (64) 91-6 通はせて-かにせて (65) 92-8 しめりたるを-しめりたる (66) 92-12 土犯すへきを-ついをらすへきを (67) 93-7 おし立ちて-おりたちて (68) 93-10 それは-かかれは (69) 93-10 侍らさりしかとも-侍らかしかと (70) 94-7 ところせし-所をし (71) 95-5 門-と (72) 95-15 ゐて-にて (73) 101-3 ものなれとも-みなれとも (74) 101-4 隠家にと-かくれかにも (75) 101-6 さらすは-さらは (76) 102-2 たたの-ナシ (77) 102-4 ところせかるへし-所をかるへし (78) 103-4 折敷-しき (78) 103-4 連り簀-つうりみの (80) 104-4 思ひ入り-思り (81) 104-4 諸心に-もろこしに (82) 104-5 ふくつけたりける-ふてたりける (83) 105-1 殊に-こゝに (84) 105-4 思ひかへせは-思ひかへは

かくの如く、久原文庫本は山田常典本と多くの共通異文を有するが、その相互関係を明かにする資料が無い。

大野広城本と内閣文庫本との関係は、前述の如く明かであるが、これらと多くの共通異文を有する伴信友本との関係は明かでない。

今、かりに第二類の諸本の相互関係を推定すれば、次のようになるであろうか。



(附記) 本稿を草するに当り、河島又生氏・松岡茂春氏・国立東京博物館・東京大学文学部国文学研究室・大東急記念文庫・国立国会図書館支部静嘉堂文庫・国立国会図書館支部内閣文庫・京都大学附属図書館・熊本大学附属図書館吉川尚氏・高木常子氏から、閲覧或いはマイクロフィルム撮影について多大の便宜を与えられた。あつく謝意を表する次第である。

(昭和31年9月29日受理)
